

前々回の「つぶやき」で、大山（大仙）古墳に収められていたと思える刀子（とうすゝし 小さな刀）やよろいの金属片を国学院大学博物館が美術商から手に入れたという新聞記事に触れました。

美術商から持ち込まれた刀子もよろいの破片も和紙で包まれ、その和紙にはそれらの品の由緒と柏木貨一郎さんの朱印が押してあったと書きました。

実は、前回触れませんでしたでしたが、二〇二五年八月二十六日の朝日新聞の記事によると、これらの品は、柏木さんから実業家で茶人、茶道具などのコレクターとして名高い益田鈍翁（どんのう）さんの手に渡り、鈍翁さんゆかりの品として流失したようです。

今年の十月四日、朝日新聞に「奈良・法隆寺の本尊である国宝・釈迦三尊像（しゃかさ んぞんぞう）の台座の『蓮弁』の一部とみられる部材が見つかった。」と、小田原文化財団が三日発表したとの記事が出ていました。釈迦三尊像は中央の釈迦如来、左右の脇侍菩薩立像（わきしぼさつりゅうぞう）からなり、今回見つかった蓮弁は、どちらかの脇侍の台座に当初あったとみられる物です。

蓮弁は、現代美術作家で古美術収集家の杉本博司さんが設立した小田原文化財団のコレクションから見つかりました。そして、その旧蔵者が、益田鈍翁さん！これまた、柏木さ

ん経由で鈍翁さんの手に入ったようです。

一度も法隆寺の外に出たことのないご本尊の一部が民間に伝わっていたということ…。埋め戻されたはずの刀子やよろいの破片、門外不出の国宝の仏像の一部が、なぜ流出しているのか…。謎です。ミステリーです！

それにしても気になるのは益田鈍翁さん。ネットの百科事典をのぞいてみると、こんな写真が掲載されていました。歴史好きの方や我々教員は、資料集等で何度か目にしたことありそうな写真です。



この写真は、第二回遣欧使節団といって、フランスに派遣された侍たちの写真です。フランスに立ち寄る前にエジプトで一八六四年に撮影

頂いた本の中に、益田鈍翁さんのことが書いてあったような…。

ありました！『和菓子を愛した人たち』虎屋文庫二二六ページに、三井財閥の最高経営者となった益田孝（たかし）（一八四八〜一九三八）は、近代の代表的な茶人の一人。自伝によると、還暦を迎えた明治四十一年（一九〇八）に黒楽（くろらく）茶碗「鈍太郎（どんたろう）」を入手し、鈍翁と名乗るようになったこと。

古美術収集家の彼は、「佐竹本三十六歌仙絵巻」が高額のため購入者がおらず、道具商から相談を受けた際、海外流出を避けるために絵の分断を決断。道具商たちと購入候補者、個々の絵の値段を決め、購入者はくじ引きで決めることに。鈍翁さん自身もくじに参加したものの、お目当ての「斎宮女御（さいいぐうのようご）」はハズれてしまい、みるみる機嫌が悪くなる鈍翁さんを見て、くじを引き当てた道具商が鈍翁さんと絵を取り換え、その場を丸く収めたこと。

念願の「斎宮女御」を手に入れた鈍翁さんは、翌年絵の披露の茶会を催し、その時使われたのが「春のかざし」という、檜扇（ひおうぎ）形の虎屋さんのお菓子だったこと。

点と点が結びつき、それが面となり、広がっていくような学び。子どもたちと楽しみながら、今後も続けていこうと思います。

（立教小学校校長 田代 正行）